

氏 名	中田 牧人
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 5 7 号
学位授与年月日	平成 2 5 年 3 月 7 日
学位論文題目	社会人経験のある看護学生と一般看護学生の学習姿勢に関する研究

論文内容要旨

※整理番号	162	(ふりがな) 氏名	なかた まきと 中田 牧人
修士論文題目	社会人経験のある看護学生と一般看護学生の学習姿勢に関する研究		
<p>【目的】高齢社会や看護師不足などの社会情勢を受けて、社会人経験のある者の看護師等学校養成所への入学数が増加している。社会人経験のある看護学生（以下、社会人看護学生）の増加に伴い、学習姿勢や態度に問題のある社会人看護学生が目立つようになってきた。本研究では、一般看護学生と社会人看護学生との学習態度に着目し、その特性や学習のプロセスを比較することで、社会人看護学生の問題となる特性を量的に調べ、今後の看護教育や新人指導の一助となる事を目的に研究した。</p> <p>【方法】学生の学習姿勢や態度を Self-Directed Learning Readiness Scale（以下、SDLRS）で、学習プロセスの意識変容の学習を他者意識尺度と個人志向性・社会志向性 PN 尺度にて、一般看護学生と社会人看護学生との量的調査をおこなった。</p> <p>【結果】一般看護学生では、学年にともない SDLRS の平均点は高くなった。社会人看護学生では、年齢階級別に SDLRS の平均点には、有意な差はなく、年齢にともない SDLRS の平均点は上昇した。一般看護学生の他者意識の平均点は、全下位尺度で、社会人看護学生よりも高かった ($p<0.001$)。一般看護学生の個人志向性・社会志向性 PN 尺度の平均点は、社会人看護学生の平均点よりも個人志向性 P 尺度で有意に低く、社会志向性 N 尺度で有意に高かった ($p<0.001$)。従属変数を SDLRS 得点とし、ステップワイズ法で重回帰分析した結果、SDLRS 得点には、個人志向性 P 尺度、社会志向性 P 尺度、空想的他者意識、内的他者意識、志望動機の‘やりがいのある職業’、年齢が、正の影響を及ぼしており、性別、志望動機の‘周囲の勧め’、社会志向性 N 尺度、社会人看護学生と一般看護学生が、負の影響を及ぼしていた ($R^2=0.53$)。</p> <p>【考察】SDLRS 得点は学年、および年齢と志望動機の関連が示唆された。個人志向性・社会志向性 PN 尺度の結果、一般看護学生は、社会人看護学生よりも自己実現性が低く、他者への一方的依存が高く、社会人看護学生は、一般看護学生よりも自己実現性が高く、他者への依存が低いことを表していた。重回帰分析の結果、正の影響を及ぼした内的他者意識と空想的他者意識から、他者に関心を向ける能力が、自己決定型学習の過程に必要なことが示唆された。正の影響を及ぼした個人志向性 P 尺度と社会志向性 P 尺度から、個性を最大限に発揮し学習に取り組み、他者との関係や社会のルールに適応した方法で学習に取り組むことが、自己決定型学習の過程に必要なプロセスであったと考えた。負の影響を及ぼした社会志向性 N 尺度から、対人関係の未成熟な状態を示しており、自己決定型学習を阻害する要因であったことが示唆された。</p> <p>【総括】社会人看護学生は、自己決定型学習の準備性に優れており、意識変容の学習に必要な、他者との関係性の構築や対人関係の形成に優れていた。一般看護学生にも社会人看護学生にも、自己決定型学習の準備性に関わる要因として志望動機が示され、学習への動機づけが内発的となるような学習の支援が重要な鍵となることが、明らかになった。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。